

「西郷村第9次高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画」 の進捗状況について

基本目標1 健康づくり・介護予防の推進

1. 健康づくりの推進

(1) 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施

■ 保健事業・介護予防の一体的な実施 《計画書 32 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
健康教室(栄養・口腔)の実施 (回)	10	10	11	1	12
75 歳以上の健康教室参加 者延べ人数(人)	100	104	120	12	140

【実施内容・実績】

村内9地区の体操教室・高齢者のサロン等において、専門職による健康教室(栄養・口腔・運動)を実施し、フレイル予防及び生活習慣病に関する知識の普及啓発を実施した。また、低栄養状態または口腔機能が低下している対象者に対しては、個別にアプローチを行い、病院及びサービスにつなげることができた。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

本村では通いの場の数が他の自治体と比較しても少ない現状である。村社会福祉協議会で支援を行っているサロンと連携しながら通いの場を創出し、専門職による健康教育・健康相談が気軽に実施できる体制づくりをしていく必要がある。また、各地区での体操教室やサロン等に専門職が長期的に定期訪問を行い支援していく。個別支援については健診結果等を踏まえながら生活習慣病等の重症化予防を図っていく。

(2) 生活習慣病予防

①生活習慣病予防

■ 生活習慣病予防 《計画書 32 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
受診勧奨者の医療機関受診率(%)	85.0	87.6%	88.0	—	90.0
糖尿病有所見者率(%)	62.0	56.8%	60.0	63.9%	58%
特定検診受診率(実績値/目標値) (%)	—/48.0	47.1%	—/49.0	44.7% (8月末)	—/50.0

※R4 受診勧奨者の医療機関受診率(%)は、R3 のデータが最新なので、R4 は11月ごろ更新予定。

【実施内容・実績】

特定健診、各がん検診の受診勧奨を行い、未受診者に対してはがきによる個別受診勧奨を実施し、健診の重要性を啓発した。また、健(検)診後の精密検査該当者への受診勧奨、糖尿病有所見者への個別面談を実施し、疾病の早期発見、早期治療へ繋げ、重症化予防を図った。また、高血圧の重症化予防として健康教室を行い、減塩を呼びかけ意識の向上に繋げた。

(R3)特定保健指導実施率 44.6%(目標値 50%)

【自己評価(現状、課題と対応策)】

健診の受診勧奨の結果、コロナ禍での健康意識の向上により、令和3年度は、特定健診、各がん検診の受診率が増加傾向にあった。それに伴い、精密検査該当者、糖尿病有所見者数が増加したが、個別による受診勧奨、訪問により、疾病の早期発見、早期治療に繋げることができた。今後も、重篤な心疾患や、脳血管疾患予防の為、高血圧、糖尿病、脂質異常者等の重症化予防に努め、相談や病院の受診勧奨を行っていく。

②健康増進事業

■ 健康増進事業 《計画書 33 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
健康増進事業(各種検診・教室)の参加者(実績値/目標値)(人)	8,100	8,179	8,200	7,687	8,300
にしごう健康ポイント事業登録者数(人)	170	146	200	20	230

【実施内容・実績】

各健(検)診への受診勧奨と、各健康教室への参加を呼びかけ、健康の保持・増進の向上を図った。特に重篤な疾患の予防を目的とした、メタボ予防運動教室・高血圧予防教室を実施し、重症化予防への意識向上と知識の普及啓発をした。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

健康に対する意識向上の為、広報、チラシ、ホームページ、アプリ等で、検診受診の周知を行い、住民全体へ情報がいきわたるよう周知を行った。

にしごう健康ポイント事業については、全戸配布でチラシを配布しているが、現在の SNS の普及に伴い、記録方法等の再検討が必要であると考ええる。しかし高齢者へも分かりやすく案内できるよう検討していく。また本事業は県の事業と合同実施しており、単年度ごとでの実施になるため、登録者数は累積ではなく単年度での人数となる。

(3) 一般介護予防事業

①介護予防把握事業(西郷村高齢者福祉トータルサポート事業)

■ 西郷村高齢者福祉トータルサポート事業 《計画書 34 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
訪問件数(件)	6,600	4,881	6,700	2,739	6,800
調査件数(件)	5,000	3,188	5,100	1,991	5,200
チェックリスト作成件数(件)	3,400	2,505	3,500	2,327	3,600

【実施内容・実績】

村社会福祉協議会に委託し、事業を実施。高齢者が自分の住み慣れた地域で安心安全に暮らし続けられるように、高齢者の実態把握調査や各種事業の代行申請、介護予防チェックリストを作成し、介護予防教室の参加促進に繋いでいる。

チェックリストから予防事業(いきいき教室)対象者抽出: 469件

チェックリストから一体化事業へ対象者抽出: 175件

包括支援センターへ繋いだ件数: 24件

【自己評価(現状、課題と対応策)】

調査員を圏域別ケア会議へ参加させ、地域課題の共有を図り介護保険地域包括ケアシステムの構築や生活支援体制整備へ繋ぐ取り組みや、訪問時に伺った高齢者の声を村管理職会議に報告し、地域課題の庁内共有も行っている。現在、高齢者世帯を優先的に訪問しているが、多世代世帯でも困難課題を抱えているケースも多いことから積極的に訪問を実施し、包括支援センターとの連携強化を図る。

②介護予防普及啓発事業

ア お元気運動教室

■ お元気運動教室 《計画書 34 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
参加者数(人)	86	92	86	25	86
参加者延べ利用回数(回)	960	643	960	218	960

【実施内容・実績】

体力レベルが比較的高い高齢者を対象に健康運動指導士等の指導によるストレッチや有酸素運動、筋力アップのためのマシンを用いた運動を行うことで介護予防の増進を図るもの。

なお、令和3年度参加者のうち運動器機能の維持・向上者の割合は91.1%だった。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

参加者の内、約3割がリピーターである。更なる介護予防の普及啓発を図るために、新規参加者の募集を図りたい。

特に行政区回覧やホームページ、インフォカナルを活用しながら更なる募集を図る。

イ いきいき教室

■ いきいき教室 《計画書 35 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
参加者数(人)	115	131	115	32	115
参加者延べ利用回数(回)	1,152	801	1,152	131	1,152

【実施内容・実績】

体力レベルが比較的低い高齢者を対象に健康運動指導士等によるストレッチや有酸素運動、器具等を用いた運動及び歯科衛生士による口腔衛生指導を行うことで介護予防の増進を図るもの。

なお、令和3年度参加者のうち運動器機能の維持・向上者の割合は77.0%だった。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

新規参加者が集まり難い傾向にある。更なる介護予防の普及啓発を図るために、地域包括支援センターやトータルサポートセンターによる募集を強化したい。

③地域介護予防活動支援事業(シニア活動支援事業)

■ 地域介護予防活動支援事業 《計画書 36 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
シニア活動支援事業派遣箇所 (地区)	11	10	12	13	13
介護予防サポーター人数(人)	33	31	42	31	51

【実施内容・実績】

シニア活動支援事業は住民主体で介護予防活動や健康教室を行っている団体に、健康運動指導士等を講師として派遣し、運動器の機能向上に向けたストレッチや有酸素運動、ボール等を利用した軽体操を通して介護予防の増進を図るもの。

また、介護予防サポーター養成講座は上記団体の運営について、協力者を養成することを目的に実施するもの。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

介護予防サポーター養成講座を修了した者の活用に至っていないため、その仕組みを構築したい。

④地域リハビリテーション活動支援事業

■ 地域リハビリテーション活動支援事業 《計画書 36 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
専門職派遣回数(回)	2	0	3	0	4

【実施内容・実績】

地域リハビリテーション連絡調整(県事業)を活用し、村内居宅介護支援事業所や地域の体操教室にリハビリテーション専門職を派遣することで、ケアマネジャーの資質向上や介護予防の促進を図るもの。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

自立支援型地域ケア会議やシニア活動支援事業により上記目的が図られているため、本事業の利活用には至っていない。

特に介護予防の促進を図るため、地域の体操教室に対して専門職の派遣要望を聞き取りしたい。

2. 介護予防・日常生活支援総合事業の充実

(1) 介護予防・生活支援サービス事業

訪問型サービス、通所型サービス

■ 訪問型サービス、通所型サービス 《計画書 37 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
訪問型サービスA実施事業所	0	0	0	0	1
通所型サービスA実施事業所	0	0	0	0	1

【実施内容・実績】

平成 29 年(2017 年)4月に、介護予防給付であった訪問介護・通所介護を本サービスに移行した。

緩和したサービス事業実施につきましては、生活支援体制整備事業や、地域ケア会議等を活用し、地域のニーズにあったサービスが提供できるよう事業所等と協議を重ねてきたが、採算性、人員の確保の問題もあり実施には至っていない。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

移行前の訪問・通所介護に相当するサービスを引き続き行うほか、村民の方が多様なサービスを選択できるよう、訪問(通所)型サービスA(緩和した基準によるサービス)の実施を目指していく。他のB(住民主体による支援)、C(短期集中予防サービス)、D(移動支援)については、生活支援体制整備事業や地域ケア会議等を活用しながら地域の実情を把握した上で必要性を検討していく。

3. 生きがいづくりの支援

(1)生涯学習

■ 生涯学習 《計画書 37 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
人生楽園クラブ延べ参加人数(人)	—	208	—	284	—
人生楽園クラブ参加実人数(人)	90	79	140	74	190
きらり学び講座延べ参加人数(人)	340	250	340	240	340
〃 参加実人数(人)	50	53	50	62	50

【実施内容・実績】

生涯学習の推進の一環として、特別講座や趣味の講座で教養を身につけ、健康増進を図るため、本村では高齢者学級である「人生楽園クラブ」を開催している。

令和 3 年度も新型コロナウイルス感染症や台風の影響により全 7 回予定したところ、3 回が中止となってしまった。また、参加実人数も外出や人と接触することへの不安等から減少している。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

高齢化が進み、新型コロナウイルスの影響も重なり、参加者の減少が続いている。今後、新たな参加者を増やし、交流を図ることが課題として挙げられる。しかし、新型コロナウイルス感染症も 3 年目となり、感染対策の徹底やワクチン接種といったことから、令和 4 年度はここまで予定通り進められており、延べ参加人数も既に令和 3 年度を超えている。今後、外出への不安等も少なくなり、人生楽園クラブの「趣味の講座」ともうひとつの柱である「研修旅行」も再開できれば、参加実人数の増加につながるのではないと思われる。

(2)スポーツ・レクリエーション

■ スポーツ・レクリエーション 《計画書 38 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
健康バドル体操参加延べ人数(人)	650	267	650	204	650
健康麻雀教室延べ参加人数(人)	30	0	30	656	30

【実施内容・実績】

健康パドル体操、健康麻雀教室は既に参加した方々が、サークルを組織し、自主運営を行っている。しかし、健康麻雀教室は感染対策の観点から、サークルの中で話し合い、令和3年度までは活動休止となっていた。健康パドル体操は2団体がたちあがり、令和3年度は、2団体あわせて41回活動している。令和4年度は既に43回の活動実績がある。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

健康麻雀教室については、令和4年度に再開となり、既に多くの方が参加している。どちらの団体も自主的に活動しているので、活動が円滑に進むよう支援していきたいと考えている。

(3) 老人クラブ活動

■ 老人クラブ連合会 《計画書 39 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
会員数(人)	225	212	230	166	235
年間活動回数(回)	50	62	70	22	90

【実施内容・実績】

西郷村老人クラブへの助成を通して仲間づくりや健康づくり、社会奉仕やその他の地域活動等、自らの生きがい高める様々な活動を支援している。高齢者の社会参加、生きがい活動、介護予防、閉じこもり防止に努めることができている。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

コロナ禍での活動が制限される中、活動の縮小や中止が相次ぎ思うように活動ができなかった。そのため、老人クラブ単会が一つ解散し、会員数の減少となった。今後の活動の在り方について検討していく必要がある。また、新規会員が増えないことも課題となっている。

(4) ボランティア活動

■ ボランティア活動 《計画書 39 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
子どもの安全見守り隊員登録者数(人)	85	82	85	82	85
地域づくり勉強会の開催(回)	1	1	1	1	1

【実施内容・実績】

地域づくり勉強会は生活支援体制整備事業の一環として、地域の課題について住民が主体的に解決を図れるように実施するもの。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

地域づくり勉強会を通して、地域の体操教室が新たに立ち上がる等の成果を上げているが、より参加者が主体的に地域の課題解決を図れるよう事業の重要性を啓発する必要がある。

(5)シルバー人材センター

■ シルバー人材センター 《計画書 40 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
会員数	150	152	155	163	160
受託・派遣受注件数(件)	1,400	1,258	1,500	685	1,600
受託・派遣契約金額(千円)	49,000	61,329	50,000	33,707	51,000

※公益社団法人白河・西郷広域シルバー人材センターのうち西郷村分の数値を抽出

【実施内容・実績】

高齢者の就業機会の増大と生きがいの充実を図るとともに、高齢者の経験と能力を活かした活力ある地域社会づくりを行うため、公益社団法人白河・西郷広域シルバー人材センターに運営費の一部を補助支援している。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

シルバー人材センターへの支援を通して、就労等による高齢者の社会参加に繋がっている。

しかし、業務の受託事業件数の増加により、現在の会員数では人員が不足していることと、会員の高齢化が課題となっている。引き続き会員募集の広報にも力を入れる。

基本目標2 地域包括ケア体制の充実

1. 地域包括ケアシステムの構築

(1) 地域包括ケアシステムの強化

■ 地域包括ケアシステムの強化 《計画書 41 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
村内における医療・介護従事者の 多職種連携会議(回)	1	1	1	1	1
村民向け包括ケア講演会(回)	1	0	1	0	1

【実施内容・実績】

地域包括ケアシステムの強化に向けて、在宅医療・介護の連携については、白河地域在宅医療拠点センターに委託し、多職種とネットワークを構築して普及へ努めた。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

高齢者の増加と共に認知症高齢者の増加が見込まれており、地域での生活を支えるためには村民が参画し、多職種が連携して支えることが重要となる。

しかし、生活支援協議体との連携が図れていないことや、村全体で実施する地域ケア推進会議の開催に至っていないことが課題となる。

対応策として、村関係機関と協議を重ねながら、生活支援協議体の活動方針を定めていくと共に民生委員との情報共有の場である圏域別ケア会議を核として、その参加者や地域の範囲を広げながら村全体で地域の高齢者を包括的に支える地域づくりを目指していく。

(2) 地域ケア会議の開催

■ 地域ケア会議 《計画書 42 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
地域ケア会議(個別地域ケア会議含む)の開催(回)	15	13	15	8	15
自立支援型地域ケア会議の開催(回)	5	5	5	2	5
地域ケア会議(圏域別)(回)	3	2	3	1	3
地域ケア会議(村全体)(回)	1	0	1	0	1

【実施内容・実績】

自立支援型地域ケア会議は要介護者の自立を目指すことを目的に、支援内容の検討や見直しを図るとともにケアマネジャー等の資質向上を図るもの。

また、圏域別ケア会議は高齢者を支援するために民生委員と村関係機関が情報交換等を行うもの。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

自立支援型地域ケア会議について、会議を重ねることで助言等がパターン化し、個別性を欠く懸念があることから、要介護者の自立をさらに促すことも含めて、主介護者を含む家族の会議出席を可とする。

また、地域ケア会議(圏域別)については、関連事業との連携も含め、その活用方法を検討する必要がある。

2. 高齢者を支える地域の体制づくり

(1) 見守り支え合う地域づくりの構築

① 見守り安心ネットワーク事業

■ 見守り安心ネットワーク事業 《計画書 43 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
事業利用世帯(世帯)	210	198	215	193	220

【実施内容・実績】

高齢者等に対し緊急通報主装置、ペンダント型送信機、見守りセンサー、火災警報器、回線内蔵型コントローラー等のシステム機器を貸与し、24 時間体制で急病、火災、事故等の緊急時に迅速かつ適切な対応を行うとともに、村、地域包括支援センター、民生委員その他の協力機関が連携して高齢者等の見守り等を実施し、当該高齢者等が住み慣れた地域で安心して生活できるようにする。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

村が契約している事業者のうち一社は安否確認の際に固定電話回線を用いており、利用者は緩やかな減少傾向にある。固定電話を設置する家庭の減少に伴い今後も緩やかに減少し続ける事が考えられるため、本事業を実施するに当たり、固定電話を用いない安否確認方法についても協議、検討をしていく必要がある。

② 高齢者見守り活動事業

■ 高齢者見守り活動事業 《計画書 43 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
協定締結数(社)	6	6	6	6	7

【実施内容・実績】

高齢者の見守り活動として、6つの企業と協定を結んでいる。

また、村社会福祉協議会では、民生委員の協力により、ひとり暮らしの高齢者に配食サービスを実施し見守り活動を行っている。

新型コロナウイルス感染症の影響で、令和3年度の配食サービスは全て中止となった。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

高齢者のみ世帯が今後も増加するため、地域における見守りの強化を図っていく必要がある。企業との見守り協定については、役場全体で連携していく必要がある。

令和4年度の配食サービスは5月より再開している。

③ 住民主体のサロン

■ 住民主体のサロン 《計画書 43 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
いきいきサロン実施地区 (箇所)	10	10	11	10	12

【実施内容・実績】

「いきいきサロン」は、高齢者が寂しさや不安を感じたり孤立したりすることがないように、参加者同士が交流し、楽しいひとときを過ごすことができる地域にある通いの場となっている。

活動内容については、サロンごとに検討しているが、村で作成した「さわやかにしごう体操」のDVDを活用し、健康づくり・介護予防にも取り組んでいる。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

サロンへの参加を通じて、閉じこもり防止や身体機能の維持向上等介護予防が期待できる。

また、男性の参加者が少ないという課題もあり、男性が参加しやすい環境づくりや、男性が興味を持つことができるような活動内容の検討も必要となる。今後は、白河地域在宅医療拠点センターで実施している出前講座についても情報共有し、活動内容の支援も図っていく。

④ 西郷村さわやか訪問収集事業

■ 西郷村さわやか訪問収集事業 《計画書 44 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
訪問実績(延べ人数:人)	1,900	1,919	2,000	1,080	2,200
利用者数(人)	36	44	40	48	44

【実施内容・実績】

この事業は老衰、身体の障害、疾病等の理由により家庭から排出されるごみを所定のごみ収集所まで搬出することが困難な高齢者等に対し、安否を確認するために継続的に訪問してごみを訪問収集するサービスを提供することにより、住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを推進する。

なお、訪問収集の業務については西郷村から委託を受けた事業者が行っている。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

さわやか訪問収集事業の対象者数は大幅に増加しており、事業の利用を希望される方の状況等を確認し、特に必要性の高い状況の高齢者等を対象として実施できるように、希望者の申請内容を確認していく必要がある。

⑤生活支援コーディネーターの活用

■ 生活支援コーディネーターの活用 《計画書 45 ページ》

【実施内容・実績】

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
活動の場 訪問回数(回)	48	25	48	14	48
地域リーダーの発掘(人)	3	2	5	0	7

生活支援体制整備事業の一環として、地域課題の検討や地域資源の発掘、人材のマッチング等を目的に生活支援コーディネーターを配置している。

また同事業による地域づくり勉強会において地域のリーダーを発掘し、地域の体操教室立ち上げに繋げることができた。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

生活支援コーディネーターの業務は多岐に渡るが、その過程で得られた情報等の十分な活用に至っていないため、重点化すべき業務を明確にしながら、その活用に繋げたい。

(2)家族介護への支援

①要介護等高齢者介護者激励金支給

■ 要介護等高齢者介護者激励金支給 《計画書 46 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
激励金申請件数(件)	120	76	125	—	130
激励金交付件数(件)	110	71	115	—	120

【実施内容・実績】

要介護3以上の方を在宅で6か月以上介護している介護者へ激励金を支給する。

(交付件数内訳) 同一世帯:64件 別世帯:7件

10月1日を基準日とし申請受付期間は10月1日～10月31日の為、進捗状況は空欄。

現在、令和4年度の申請受付期間。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

要介護3以上の方を在宅で介護する介護者の負担増を考慮すると、激励金の額についてが今後の課題となっている。

②家族介護慰労金

■ 家族介護慰労金 《計画書 46 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
慰労金対象者数(人)	1	0	1	—	1
慰労金交付率(%)	100	0	100	—	100

※基準日 12月31日時点のため令和4年度は空欄

【実施内容・実績】

要介護4以上の住民税非課税世帯の在宅高齢者等で、過去1年における介護保険によるサービスを受けなかった方を介護している家族へ家族介護慰労金を支給する。

申請件数:0 件

【自己評価(現状、課題と対応策)】

要介護者を在宅で介護する家族の負担は大きいと考えられるため、介護者の労をねぎらうとともに経済的負担を軽減し、高齢者福祉の増進を図る必要がある。

介護保険制度の地域支援事業であり、任意事業に位置付けられている。財源は地域支援事業の交付金で、受給条件が厳しいことが課題となる。

要介護等高齢者介護者激励金支給事業と連携し、介護者の労をねぎらうとともに経済的な負担の軽減と要介護高齢者等の在宅生活の継続、向上を図り事業内容の周知も必要となる。

3. 地域支援事業の充実

(1) 包括的支援事業の活用

① 地域包括支援センターの運営

■ 地域包括支援センターの運営 《計画書 47 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
ケアマネ会議の開催(回)	6	2	6	1	6
総合相談支援件数(件)	900	1,358	950	700	1,000

【実施内容・実績】

地域の高齢者が、住み慣れた地域で、安心して、その人らしい生活を継続していくことができるよう、高齢者の暮らしを地域でサポートするための拠点・高齢者の総合窓口として、平成18年(2006年)に「地域包括支援センター」を設置し運営している。

○事業の実施内容

- (ア) 包括的支援事業
- (イ) 第1号介護予防支援事業
- (ウ) 認知症総合支援事業
- (エ) 地域ケア会議の実施
- (オ) 生活支援体制整備事業
- (カ) 任意事業及びその他の業務

【自己評価(現状、課題と対応策)】

包括支援センターへの総合相談件数も年々増加してきており、ますます重要性が高まっている。新型コロナウイルス感染症の影響により、ケアマネ会議が開催できない等の状況であったが、必要に応じてケアマネジャーへの個別指導を実施し、相談・助言につなげていく。

②在宅医療・介護連携推進事業

■ 白河地域在宅医療拠点センター 《計画書 48 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
他職種連携会議の実施回数(回)	4	1	4	2	4
村民への講演会・講座 実施回数 (回)	4	1	5	2	6

【実施内容・実績】

平成 28 年度(2016 年度)より、西白河郡の5市町村が共同で、一般社団法人白河医師会に委託して「白河地域在宅医療拠点センター」を設置し、在宅医療・介護連携に関する相談支援等に当たっている。

令和3年度はコロナウイルス感染症の影響により、人が集まる事業はやむなく中止したものが多いのが現状である。令和4年度は感染対策を行い、インターネットを併用しながら事業を実施している。

村民への講演会・講座についても、令和4年度は感染対策を行いながら実施しており、シニア健康教室3団体から予約が入っている。2回は実施済みで、他 5回の実施を予定している。今後もより多くの村民に周知するとともに医療・介護等関係者の更なる連携強化を図る必要がある。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

今後も引き続き、支援を必要とする状態にある高齢者の自立支援を図っていく。住み慣れた地域で、尊厳ある自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるように、地域の関係諸機関が連携して、包括的かつ継続的な在宅医療と介護を一体的に提供するために、円滑な運用の支援を行う。

多職種において顔の見える関係を構築し、通信機器等を活用した、迅速かつ円滑に連携ができる体制を整えるとともに、村民への講演会・講座等により普及啓発に取り組む。

③ 認知症総合支援事業

■ 認知症総合支援事業 《計画書 48 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
認知症初期集中支援チーム支援件数(件)	1	0	2	0	2
認知症初期集中支援チーム検討委員会の開催(回)	1	0	2	0	2

【実施内容・実績】

認知症になっても出来るだけ長く住み慣れた地域で生活できるよう、認知症の方に早期に関わるため、「認知症初期集中支援チーム」を県南4町村(矢吹町・中島村・泉崎村・西郷村)合同で県立矢吹病院に設置している。令和3年度は認知症初期集中支援チームにおける伝達研修会を行い、情報共有及び対応力向上を図ることができた。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

認知症又は認知症の疑いのある方または家族に必要な医療や介護の調整をいつでも行えるよう、引き続き認知症地域支援推進員や地域包括支援センターと連携し、早期に認知症初期集中支援チームにつなげる体制を整えていく必要がある。

チームの初動までの時間短縮が課題として挙げられる。認知症の今後の取り組みとしては、支援内容を検討し、適切かつ迅速な早期診断・早期対応ができるよう支援していく。

また、チームで対応したケースの内容や支援方法を報告し、外部の意見を取り入れ、今後のチームの活動内容に反映する、認知症初期集中支援チーム検討委員会の設置を目指す。

認知症推進員の活動(相談支援):令和3年度 100件 令和4年度:58件

4. 医療・福祉・介護連携体制の整備

(1)医療・福祉・介護の連携のための人材の育成等

■ 在宅医療を担う医師数と在宅医療を受ける患者数 《計画書 49 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
在宅医療を担う医師数(人)	15	13	16	16	17
在宅医療を受ける患者数(人)	2,000	2,753	2,100	—	2,200

【実施内容・実績】

本村でも、医療・福祉・介護の分野における人材の育成や確保が課題となっている。そのため、地域の関係団体が連携して、包括的かつ継続的な在宅医療と介護を一体的に提供するために必要な支援として訪問診療医等医療と介護を担う人材の確保等に努めている。

西白河郡において在宅医療を担う医師数については、令和4年4月1日から白河厚生総合病院内の農村健診センターに在宅療養支援診療所を開所され、新たに3名の医師が加わった。

在宅診療患者数は大幅に増え、看取り者数も増加している。在宅医療を担う医師の確保は今後も重要となる。在宅医療を受ける患者数は、令和5年4月に調査を予定している。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

地域の医療・介護の関係団体が連携して、包括的かつ継続的な在宅医療と介護を一体的に提供するために必要な支援として訪問診療医等医療を担う人材の確保等に努める。

特に、白河医師会と連携を取りながら白河市・西白河郡の町村と協力し、在宅医療の基盤となる訪問診療医の確保に努める。

また、関係機関等と連携して、勉強会、講演会等を開催し介護保険への関心を持っていただき、介護職のイメージ改善を図り介護人材の確保及び育成に継続して取り組んでいく。介護保険事業所等には、国や県で行っている介護職員の処遇改善等積極的に取り組んでいけるよう支援し、人材育成に取り組む評価制度等を活用していく。

地域包括ケアシステムを構築するためには、介護職員ばかりでなく、地域で支え合える担い

手等の育成等についても、協議体や地域ケア会議等の場等を活用し、将来の人材の育成についても取り組んでいく。

■ 人材の育成に関する取組 《計画書 49 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
介護に関する講演会	2	0	2	0	2
介護人材の育成(人) ※ボランティア等	5	17	8	0	11

【実施内容・実績】

令和4年度に介護予防と健康をテーマにした講演会を2本立てで予定している。

また、介護予防サポーター養成講座は新規参加者を対象とした初級編と過去に参加された方を対象にした上級編に分けて、それぞれ4回の講座を予定している。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

講演会参加者や介護予防サポーターの活用に至っていないため、その活用方法を構築する必要がある。

5. 高齢者の住まいの確保

(1) サービス付き高齢者向け住宅等高齢者向けの住まいについて

■ 高齢者向けの住まいの確保 《計画書 50 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
高齢者向け住宅の連携会議(回)	1	1	1	1	1

【実施内容・実績】

高齢者の住まいについて、県、住宅担当課、高齢者担当課による連携会議を実施し、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅等の情報について連携を図った。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

高齢者のみ世帯が増加していることに加えて、持ち家の老朽化や迅速にサービスを受けられない地域に住んでいる等、高齢者の住まいのあり方が課題になっている。

村内には、サービス付き高齢者向け住宅が2か所あり、介護度が重い方も多数入居している。そのため、災害時の避難等について課題が残る。また、村には建設に係る指定権限はなく、村の介護保険事業計画との整合が図れない可能性がある。

基本目標3 高齢者福祉の充実

1. 生活支援サービスの充実

(1) 高齢者生きがい活動支援通所事業

■ 高齢者生きがい活動支援通所事業 《計画書 51 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
登録者数(人)	3	3	4	0	4
利用実績(延回数)	100	39	110	0	110

【実施内容・実績】

在宅で生活する介護保険対象外の高齢者に対し、西郷村デイサービスセンター「ふれあいの家」「やすらぎの家」にて通所各種サービス(入浴、食事、生活指導、健康チェック等)の提供を行っている。利用者が少ない現状はあるが、高齢者の交流と仲間づくり、健康づくり、介護予防、閉じこもり解消等の支援をすることができた。

令和3年度は登録者が3名いたが、介護保険に移行したため、年度末には登録者がいない状況となった。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

平成29年4月より開始された総合事業と連携し、デイサービス通所以外の生きがいづくり、社会参加への提供について検討が必要となる。

利用者が総合事業及び介護保険に移行し、減少する傾向にある。必要とする方がサービス利用へ繋がるようトータルサポート事業と連携し、広報・周知に努めていく。

(2) 訪問理美容サービス事業

■ 訪問理美容サービス事業 《計画書 52 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
申請者数(人)	14	10	15	9	16
助成券発行枚数(枚)	50	32	55	35	60
事業利用延べ回数(回)	25	20	27	9	29

【実施内容・実績】

65 歳以上の在宅で生活する要介護認定者や外出が困難な寝たきり等高齢者に対し、訪問による理美容サービスの出張経費を助成し、利用者の衛生向上、経済面での負担軽減を図っている。令和3年度は事業利用者の入所や死亡により、事業利用枚数の実績は下回った。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

今後、増加傾向にある在宅高齢者の健康・衛生保持の促進を図るため、事業実施の必要がある。前年度からの継続利用者がほとんどの為、ケアマネ会議等で事業内容の周知を行い、新規利用者の増加を目指すため、トータルサポート事業と連携し、広報・周知に努めていく。

(3) 寝具洗濯乾燥消毒サービス事業

■ 寝具洗濯乾燥消毒サービス事業 《計画書 52 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
事業延べ利用人数(人)	175	228	180	142	185
寝具類利用枚数(枚)	460	594	470	364	480

【実施内容・実績】

65 歳以上で要介護 3 以上の方、高齢者のみ世帯の方、40 歳以上の寝たきり等の重度身体障がい者の方に対して、寝具の洗濯乾燥消毒を行っている。

高齢者のみ世帯:166 人 要介護者:57 人 重度身体障がい者:3 人 その他:2 人

【自己評価(現状、課題と対応策)】

徐々に利用者数が増加し、利用人数、寝具枚数共に目標を上回っている。令和3年度から新たな受託事業所が増え、利用者が増加している中でも対応できている。引き続きケアマネジャーや民生員等に協力していただき、利用者数を増やす取り組みを行っていく。

(4) はり、きゅう、マッサージ等の施術費用助成事業

■ はり、きゅう、マッサージ等の施術費用助成事業 《計画書 53 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
申請者数(人)	200	168	205	161	210
発行枚数(枚)	2,050	1,853	2,055	1,853	2,060
延べ利用枚数(枚)	680	696	685	341	690

【実施内容・実績】

70 歳以上、または 65 歳以上で障害者手帳1・2級を持っている高齢者が、はり・きゅう・マッサージ等の施術を受ける場合、その費用の一部を助成している。(1 回あたり 1,000 円分の助成券)令和3年度は申請者数が目標値を下回ったが、延べ利用枚数は目標値を上回っており、申請者の利用率が高いことが伺える。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

高齢者の健康保持及び在宅福祉の向上を図ることのできる事業のため、事業実施の必要がある。70 歳以上高齢者数は増加しているが、利用者についてはほぼ横ばいになっている。事業内容を分かりやすく周知し、サービスの向上につなげていくことが課題として挙げられる。

新規利用者の増加を目指すため、トータルサポート事業と連携し、広報・周知に努めていく。

(5) 外出支援事業

■ 外出支援事業 《計画書 53 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
65 歳以上事業登録者(人)	570	433	580	482	590
延べ利用回数	—	—	—	—	—

【実施内容・実績】

令和元年度(2019 年度)7 月より企画政策課のデマンド交通と統合された。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

高齢者の登録者数は増加している。令和4年10月より、土日祝日も利用可能となった。

要介護認定となった利用者が継続利用できなくなることと、運行区域外への送迎が課題としてあげられる。

(6) 寝たきり高齢者等紙おむつ支給事業

■ 寝たきり高齢者等紙おむつ支給事業 《計画書 54 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
申請者数(人)	385	393	390	383	395
助成券発行枚数(枚)	4,180	4,364	4,190	4,557	4,200
紙おむつ給付券延べ利用枚数(枚)	2,750	2,815	2,770	1,435	2,790

【実施内容・実績】

在宅で介護認定を受けている高齢者の方に対して、利用類型4分類(最重度、重度、中度、軽度)に応じ給付券を支給している。

最重度:5,800 円 重度:4,200 円 中度:2,500 円 軽度:1,000 円 ※(1 割自己負担)

【自己評価(現状、課題と対応策)】

利用者が死亡・施設入所により事業対象外となるケースや、介護認定区分の変更によりおむつ給付券の利用類型も変更となるケースが生じている。介護情報、ケアマネジャーと連携し事業対象者への周知を行っている。

助成費用額については、今後も増加が見込まれることが課題となる。

今後、要介護等認定者等の増加が見込まれるため、実態に合わせた事業内容を検討していく必要がある。

(7) 高齢者温泉無料開放事業

■ 高齢者温泉無料開放事業 《計画書 54 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
無料証明書発行枚数(枚)	—	—	—	—	—

【実施内容・実績】

令和2年度より事業中止

【自己評価(現状、課題と対応策)】

令和2年度より事業中止

(8) 軽度生活援助事業

■ 軽度生活援助事業 《計画書 54 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
利用者数(人)	5	4	6	4	7
延べ利用回数(回)	145	107	150	37	155

【実施内容・実績】

65 歳以上で介護保険対象外の方に、訪問介護員を派遣し家事援助サービス(室内の整理・整頓、外出時の援助、食事・食材の確保、寝具類等の日干し、その他軽微な援助)を提供している。

なお、利用者に求められているサービスとしては、室内の整理・整頓や、食事・食材の確保が主な実績となる。

指定事業所数:1 事業所

【自己評価(現状、課題と対応策)】

在宅高齢者の自立生活をサポートし、介護予防を図る上でも継続事業実施が必要となる。

利用者数が増えた場合、現在の指定事業所のみでは事業対応できなくなるのが課題として挙げられる。

必要とする方がサービスに繋がるよう、トータルサポート事業と連携し、広報・周知に努め高齢者の日常生活の支援を行っていく。また、新たな指定事業所での事業実施も検討していく。

2. 敬老事業

(1) 敬老祝金

■ 敬老祝金 《計画書 55 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
敬老祝金支給額(千円)	11,755	10,805	13,170	—	12,383

【実施内容・実績】

毎年「敬老の日」に合わせて5,000円の敬老祝金を支給している。対象者は、9月15日を基準日とし、1年以上村に住民登録している満75歳以上の方。

和3年度は対象者2,161名全てに支給することができた。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

高齢者数の増加に伴い、経費増が課題となる。令和4年度に実施するニーズ調査のデータを活用し敬老事業検討委員会で敬老事業の今後のあり方について検討していく。

令和4年度 祝金対象者2,272名 ※10月末日までに振込予定

(2) 百歳高齢者賀寿

■ 百歳高齢者賀寿 《計画書 55 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
支給対象件数(件)	6	5	5	2	9

【実施内容・実績】

100歳高齢者の方に、祝状及び祝金100,000円を贈呈している。

令和3年度対象者は5名で、新型コロナウイルス感染症対策として、対象者家族や入所施設の意向により全て進達で実施。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

感染症対策として、進達で実施しているが、親族の意向を聞きながら村広報誌への掲載を継続していく。

(3) 敬老会

■ 敬老会 《計画書 56 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
出席者数(人)	190	20	200	37	220
出席率(%)	14.64	19.80	14.81	14.57	15.7

【実施内容・実績】

規模縮小とし対象者を80歳傘寿、しあわせ金婚夫婦とし村保健福祉センターで開催した。

対象者:67名(米寿)、34名(しあわせ金婚夫婦)※17組

【自己評価(現状、課題と対応策)】

令和4年度に実施するニーズ調査でも敬老事業のあり方について、意向調査を実施予定。内容を検討しながら事業を継続していく必要がある。

3. 認知症施策の推進

(1) 認知症に対する正しい知識の普及推進

■ 普及啓発等 《計画書 56 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
認知症サポーター数(人) ※認知症サポーター養成講座受講者数(人)	1,540	1,167	2,100	1,271	2,600
認知症サポーターステップアップ講座の開催(回)	1	0	1	0	2
アルツハイマー月間に伴う普及啓発活動(回)	1	1	1	2	1

【実施内容・実績】

認知症の方が安心して暮らせる村づくりを目指して、認知症サポーター養成講座を村民・学校向けに開催し、幅広い世代及び職種の方へ認知症について正しい知識の理解と普及啓発を推進するとともに、地域の見守りの強化を図っている。中学生向けの認知症サポーター養成講座と一般村民向けの認知症サポーター養成講座を実施している。養成講座受講者に、認知症サポーターとして認知症関係事業への協力をいただいている。

令和3年度は感染流行に伴い、講座を延期した。

西郷第一中学校(1年生)受講者数:115 西郷第二中学校(2年生):令和4年度に延期

認知症サポーター活動回数:令和3年度 4回(養成講座協力、普及啓発活動、カフェ打合せ)

令和4年度 6回(普及啓発活動、カフェ打合せ、カフェ開催)

【自己評価(現状、課題と対応策)】

世界アルツハイマー月間に認知症に関する広報活動を行っているが、令和元年に実施したニーズ調査からは、相談窓口について知らないという回答が多かった。普及啓発活動で活用している資料に、困りごとがあった際の相談窓口の周知をし、早期に相談につながるような工夫をしている。

認知症サポーターの方を、村の認知症施策事業で十分な活用に至っていないため、重点化すべき事業を明確にしながら、その活用につなげたい。そのために、ステップアップ講座を実施し、*チームオレンジの構築を目指していく。

*チームオレンジとは認知症サポーターがチームを組み、認知症の人や家族に対する生活面の早期からの支援を行う取り組み。

(2) 認知症の早期発見や見守り体制整備

■ 見守り体制の整備 《計画書 57 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
チームオレンジの構築(回)	0	0	1	0	2
見守り・搜索システムの導入(件)	0	0	1	0	1

【実施内容・実績】

村地域包括支援センターにコーディネーターとしての役を担う認知症地域支援推進員を配置し、認知症施策や認知症に関する事業の企画調整等を行っている。

加えて、見守りの体制づくりを進めるキーパーソンとして、認知症サポーター養成講座や「認知症ケアパス」の普及、関係者への研修の実施、認知症カフェの支援等、ネットワークづくりを進めている。

令和4年7月には、圏域別ケア会議で認知症高齢者等の見守り体制整備について民生委員や関係機関との意見交換を行った。

認知症推進員の活動(相談支援):令和3年度 100件 令和4年度:58件

【自己評価(現状、課題と対応策)】

認知症高齢者やひとり暮らし高齢者等に対する身近な地域での見守りについて、圏域別地域ケア会議を通じて民生委員や地域住民の協力を得ながら、それぞれの地域のニーズや実情に応じた見守り体制を構築していくことが課題となる。

また、認知症による徘徊高齢者を地域の中で早期に発見できるよう、既存の見守り体制等を活用し、村内の関係機関と情報共有を図ることで、高齢者自身の安全と家族への支援を行っていくことが重要となる。

(3) 認知症の予防

■ 認知症の予防 《計画書 57 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
認知症カフェ(設置数)	1	1	2	1	3

【実施内容・実績】

認知症カフェは、認知症の本人及び家族が身近な場所で、医療・保健・福祉の専門職に相談しながら、地域住民と交流ができる場、気軽に情報交換できる場として設置している。

令和3年度は感染対策のため実施は控えていたが、認知症サポーターと他市町村のカフェの見学に行き、実施方法についての検討を行った。令和4年度はウエルシア薬局西白河西郷店の一角を借用し、少人数・短時間でのカフェを開催した。12月には保健福祉センターでクリスマスカフェの開催を予定している。 令和4年度 認知症カフェ開催:3回予定(8・10・12月)

【自己評価(現状、課題と対応策)】

コロナ禍でも、開催できる内容で対応している。

また、カフェ開催時にも高齢者の相談窓口を設置し、休日しか相談に来られない方への介護申請等の対応も行っている。

社会参加による孤立の解消や、役割の保持等が認知症の予防に効果があるとされている。そのため、気軽に参加できるよう、地域ごとの認知症カフェの設置に取り組んでいく。

4. 高齢者の権利擁護の推進

(1) 権利擁護に関する取組の充実

■ 権利擁護事業 《計画書 58 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
成年後見制度の活用促進(件)	6	45	7	20	8
高齢者虐待への対応(件)	0	11	0	5	0
困難事例への対応(件)	40	38	40	14	40
その他権利擁護相談件数(件)	10	16	10	3	10

【実施内容・実績】

高齢者の人権や財産等の権利を守る「権利擁護」については、重要なテーマとなっており成年後見制度の活用促進、高齢者虐待への対応、困難事例への対応、消費者被害の対応について相談・対応件数が増加している。

また、成年後見制度に関する理解を促進するため、成年後見制度に関する勉強会をケアマネジャー対象に実施した。

なお、成年後見の申立てを行う親族がない場合には、「成年後見制度利用支援事業」により村長申立を検討・対応している。

成年後見制度利用支援事業（村長申立）令和3年度：1件 令和4年度：1件

【自己評価(現状、課題と対応策)】

高齢化や核家族化の進展により、高齢者の困難事例が増加している状況である。地域住民や、民生児童委員、ケアマネジャー等の支援だけでは十分に問題解決ができない、適切なサービスにつながる方法がみつからない等、困難な状況にある高齢者が、地域において安心して尊厳のある生活ができるよう、専門的・継続的な視点から支援を行う必要がある。

西郷村成年後見支援センターを中心に、認知症高齢者等の支援を強化する体制を整備している。今後は、一般向けの講演会も検討していく。

成年後見支援センター業務：令和3年度 71 件

令和4年度 21 件

(2) 虐待防止への取組の推進

■ 虐待防止 《計画書 59 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
虐待防止ネットワーク委員会の開催 (回)	1	1	1	1	1

【実施内容・実績】

高齢者虐待を防止するためには、福祉・保健・医療等の関係機関とともに地域が、それぞれの立場で、虐待を受けている高齢者のサインを敏感に察知して気付くことが重要であることから、民生児童委員、地域包括支援センター、社会福祉協議会、介護事業所、警察等と連携を図りながら高齢者虐待の未然防止と早期発見、迅速な対応に努めている。

また、被虐待高齢者保護の観点から村内の特別養護老人ホーム福島県やまぶき荘と保護に関する協定を毎年締結している。

虐待通報件数:3 件 虐待と認められた件数:1 件

【自己評価(現状、課題と対応策)】

個別案件については村と包括支援センターが連携し対応している。村の虐待防止対応マニュアルの内容の精査も課題として挙げられる。

高齢者人口の増加に伴い、今後も高齢者虐待のリスクが増加することが予測されるため、引き続き関係機関との連携強化に努める。

5. 高齢者にやさしいまちづくりの推進

(1) ユニバーサルデザインのまちづくりの推進

① 高齢者にやさしい住まいづくり助成事業

■ 高齢者にやさしい住まいづくり助成事業 《計画書 59 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
住宅改修件数(件)	34	40	38	18	42
住宅改修費(千円)	3,000	3,973	3,400	1,561	3,800

【実施内容・実績】

高齢者が自宅において転倒等により要介護・要支援状態とならないよう、自立した在宅生活の継続を促進するために、住宅改修を実施する方へ改修費用の一部を助成している。

令和3年度実績

・改修内容) 手すりの取付 33 件 段差解消 12 件 床材変更 1 件 扉の取替 1 件
洋式便座取替 1 件

【自己評価(現状、課題と対応策)】

広報での周知や、トータルサポートの訪問等で本事業を利用する方が増えている。

利用者の希望やどのような改修が必要か内容の確認を行うとともに、工事着手前と竣工時に検査を行い適正な助成を行う。

また、冬季前に改修を希望する方も多いため、村地域包括支援センターと連携を図りながら迅速な対応に努める。

(2) 災害時における体制整備

① 災害時要援護者支援事業

■ 災害時要援護者支援事業 《計画書 60 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
75 歳以上高齢者独居及び高齢者の み世帯情報提供回数(回)	2	2	2	1	2
介護認定者情報提供回数(回)	2	2	2	1	2

① 連絡体制等の整備

■ 連絡体制等の整備 《計画書 60 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
関係機関との連携会議(回)	1	1	1	0	1

【実施内容・実績】

災害時に自力で避難することが困難な高齢者や障がい者等を「避難行動要支援者」として名簿を作成し、災害に備えて地域全体で支援していく為に、各行政区長及び民生委員に情報の共有を図った。

令和3年度は12月に実施した圏域別ケア会議では防災課より避難行動要支援者名簿についての説明を行った。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

現状は、避難行動要支援者名簿を関係各機関より情報提供してもらい、名簿を作成して共有を図っているが、転入者等の最新の情報が得にくい状況である。国の指針では年2回以上更新が望ましいとされているが、現況と名簿作成のタイムラグにより把握できない情報があるため今後は、介護システムと住基が連動した避難行動要支援者システムの導入を検討する。また当村では災害時避難行動の個別計画を作成していないため早急に作成を進めてまいりたいと考えている。

(3) 感染症対策に係る体制整備

■ 感染症対策に係る体制整備 《計画書 61 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
介護保険事業所の備蓄(%)	100	100	100	100	100

【実施内容・実績】

県や保健・介護・福祉部門との連携を引き続き推進するとともに、感染症対策の課題検討に向けて、西郷村新型コロナウイルス感染症対策本部との連携のもと、感染症対策を講じていく。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

日頃から介護保険施設や事業所等との連携に努め、感染拡大防止策の情報提供や啓発を実施し、平時からの感染症に対する備えを進めていく。

基本目標4 利用者本位の介護保険事業の推進

1. 介護保険サービスの充実

(1) 介護保険サービス基盤整備

■ 施設の整備 《計画書 62 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
地域密着型特別養護老人ホームの整備(箇所)	0	0	0	0	1
認知症グループホームの整備(箇所)	2	2	2	2	3

【実施内容・実績】

令和3年度に認知症グループホーム整備事業者を公募し(1 社)決定した。令和5年度中の建設を予定している。

また、地域密着型特別養護老人ホームの整備について、福島県内の社会福祉法人に出向き、誘致を図ってきたが実現には至らなかった。しかし、誘致交渉の中で設置の申し出のあった広域型特別養護老人ホームの整備に向け介護保険事業計画を変更し、令和5年度中の建設を目指している。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

現在村では約50名の施設入所待機者がいる状況である。今後も高齢化社会において一人暮らし高齢者や認知症高齢者の増加が見込まれるため、早急な介護保険サービス基盤の整備が求められている。今般計画された認知症グループホーム、広域型特別養護老人ホームの整備計画を実現し、介護需要急増への対応、さらには施設入所待機者の解消を図りたい。

(2) 介護保険サービス事業者への支援及び指導・助言

① 居宅支援事業者への支援

■ 居宅支援事業者への支援 《計画書 62 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
居宅介護支援事業所への運営指導(件)	2	1	2	0	2

【実施内容・実績】

居宅介護支援事業所については、ケアマネ会議等で勉強会や指導・助言を行いケアマネジャーの資質向上に努めており、実地指導(令和4年度より運営指導に改正)については1件実施しており、運営状況等に大きな問題はなかったため、書類上の細かい誤りに関する指摘を実施した。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

新型コロナウイルス感染症流行に伴い、実地での指導が難しい状態になっており、これに伴い令和4年度からは原則、実地で指導を行うが、必要であればオンライン等で実施する事も可能な運営指導へと改正が行われており、西郷村でも状況に合わせた形での指導を柔軟に行えるように準備をしていく。

②地域密着型サービス事業所への支援

■ 地域密着型サービス事業所への支援 《計画書 63 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
地域密着型サービス運営委員会の開催(回)	2		2		2
地域密着型サービス事業所への運営指導(件)	1	0	1	0	1

【実施内容・実績】

令和3年度については、新型コロナウイルス感染症流行に伴う対応ため、高齢者施設への立ち入りが制限されたことから実地指導については実施に至らなかった。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

実地指導に関しては、令和4年度からは原則、実地で指導を行うが、必要であればオンライン等で実施する事も可能な運営指導へと改正が行われており、西郷村でもオンラインでの指導を選択肢にできるよう、環境を整備していく必要がある。

2. 介護保険事業の適正・円滑な運営

(1) 介護給付適正化に向けた取組の推進

■ 介護給付適正化に向けた取組の推進 《計画書 63 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
例外給付に係るケアプランの点検率(%)	100	100	100	100	100
介護給付費の通知送付率(%)	100	100	100	100	100

【実施内容・実績】

介護給付適正化事業の主要5事業(ケアプランの点検、介護給付費の通知、認定調査状況の確認、住宅改修・福祉用具実態調査、医療情報との突合)を実施している。

特にケアプランの点検及び介護給付費の通知に重点を置き、利用者の自立支援や介護給付の適正化につながるよう支援している。

ケアプランの点検については、以前より例外給付や自立支援会議での事例を点検してきた。令和3年度は新たに、福島県主催のケアプラン点検支援事業を活用し、1事業所にて10件(ケアマネジャー1名につき2件)のケアプラン点検を実施した。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

引き続き主要5事業を実施する。

また、ケアプランの点検について村内に居宅介護支援事業所は6か所あり、1年に1事業所ずつ点検していく。令和4年度は1事業所にて10件の点検を予定している。

(2) 低所得者対策の推進

■ 生活困難者に対する利用者負担軽減措置事業 《計画書 64 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度
	目標値	実績値	目標値	進捗 R4.9.30 時点	目標値
利用者軽減件数(人)	10	6	12	3	14
低所得者の介護保険料の軽減(人)	1,200	1,178	1,300	1,176	1,400

【実施内容・実績】

○社会福祉法人等による利用者負担額軽減制度

低所得で生活困難な方の介護保険サービスの利用促進を図るため、介護保険サービスの提供を行う社会福祉法人等が、その社会的な役割の一環として利用者負担額の軽減を図る。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

○社会福祉法人等による利用者負担額軽減制度

施設に協力を依頼し、対象者の把握及び負担軽減症の発行を行った。広報、ホームページでの掲載により新規の方が申請に至り対象者となっている。引き続き事業の周知を行い、低所得者の経済的負担の軽減を図っていく。